

2012/10/10

## e-ICON World Contest 2012 報告レポート

成蹊大学 理工学部情報科学科 2年 桑原 奈央

### I. 事前のオンライントレーニングについて

指定されたサイトからオンラインレクチャを受ける予定だったが、私はオンラインレクチャを受けるために必要なメディアプレイヤーをダウンロードすることができなかった。そのため、本部の方からオンラインレクチャに匹敵するPDFファイルを送ってもらった。内容はこのコンテストがどういったものなのか、ISD(Instructional System Design)について、国際協力について、e-learningコンテンツの開発方法、PBL(Problem Based Learning)について学んだ。その後それぞれに対して提出課題であるEssayを提出した。Essay以降の提出物はすべてMicrosoft Outlook上で行われすべてチーム全員で共有できるようになった。

チーム編成の経緯はよくわからなかったが、私たちのチームは日本チームが原子力について、韓国チームが記号学についてやりたいと最初の提出物に記入していた。そのため、メールでどちらを今回のコンテンツ内容にするか話し合う必要があった。私自身が直接韓国の子と事前に連絡を取ったわけではないのだが、日本チームの相方が連絡を取り続けてくれた。その結果、原子力については今、注目はされているが情報量が多すぎて真偽の区別が難しいという点から、韓国チームの提案してきた記号学を今回のコンテンツ内容としてやることに決定した。

その後、個人の自己紹介、チームの自己紹介を提出して、私たちは韓国へ出発した。

### II. 現地での様子

#### ● 開発環境

コンテスト自体は9月9日～13日であったが、前日の8日に韓国に到着した。到着してから迎えの方がいらっしゃって、ホテルへ向かった。ホテル到着後、受付を済まし、現地でユニフォームになる黄色いパーカーを受け取った。その後、すぐに同じチームの韓国チームの2人が部屋を訪ねてきてくれ夕飯を一緒に食べに行き、韓国チームの部屋でこれから始まるコンテストで作成するコンテンツについて話し合いを行った。この時に、初めて顔を合わせた訳だが、とても仲良くなることができ深夜にも関わらず話し合いは順調に進み、12,13日にチームの発表ブースに掲示する資料を作成し、チームのコンテンツ内容を記した資料を作成し提出をした。9日の午前中はオープニングセレモニーが行われ、午後から本格的にコンテンツを作成するようになった。場所はホテルの会議室であった。最初はインターネットに接続することができなかつたり、パソコンのコードをつなげることができなかった

と問題は多々あったが、徐々に解決されていった。各チームのコンテンツ開発のスペースは机1個とホワイトボード1つである。チーム全員で共有したい情報や今日行うべきことなどをホワイトボードに書いて共有していった。

#### ● コラボレーション

初日の話合いでそれぞれの役割分担が決められた。4人のうち、2人がコンテンツ開発、残りの2人が情報収集の担当となった。私はコンテンツ開発のほうに入った。コンテンツ開発を共に行うことになった韓国の子の提案でプレゼン用ソフトのpreziを使って作成することになった。preziの存在自体もわからなかったので、チームでの話し合いの後、必死で日本語版のpreziの使用法や概要の書いてあるサイトを検索し、勉強を行った。そのとき、初めてPowerpoint以外にプレゼン資料として使用するのにとってもいい材料になることを知った。さらに、preziはネットワークを介して編集したりするので多くの人で共有できる。

そして、いよいよこれからどのように調べていくか、何を調べるかを樹形図のようにしてホワイトボードに記入して、その樹形図に1日ずつの目標をさらに記してから開発を始めた。最初は全員で資料収集を行い、Facebookを使って調べた資料を共有した。そして、ある程度資料が集まったところで、1人が資料の選別を行う担当になり、資料の確認を行った。資料収集中も休憩時間を自分たちで設定し、休憩時間になったらパソコンから目を離し、雑談したり、お菓子を食ったりした。初めて顔を合わせてからまだ数日も経っていないのにとても仲良くなり、コンテンツの開発時間外もホテル周辺の海に遊びに行ったり、お互いの部屋を行き来したりして1日中チームの子と生活していたように思う。

実際、コンテンツ開発が本格的になり、私は情報収集を行うように言われ、結局コンテンツ開発は韓国の子1人で作成することになり、正直少し申し訳ない気持ちになった。でも、チームの空気は終始楽しく協力してコンテンツ開発を進めることができた。

#### ● 開発した教材の概要

私のチームが作成したコンテンツのタイトルは「Non-verbal Communication」

このコンテンツは今回のコンテストに参加した11か国の国の挨拶、そしてやっていいジェスチャー、そのほかマナーをまとめた。年齢・性別・国を問わずに様々な人が利用できるのが、大きな利点である。また、preziで作成したことにより学習者がまるで世界を旅行したかのように学習することができる。さらに、挨拶を学ぶパートでは日本人の主人公やがその国の人と実際に挨拶をしている映像がついてる。これを見ることでネイティブじゃない人の発音を聞くことができ、練習することができる。このコンテンツの最大の特徴はe-learningコンテンツ独特の文字ばかりを読んで学習するのではなく、映像・画像をふんだんに使いさらにprezi独特のカーソルの大きな動きがあるので学習を進めていくのが楽しいことである。

## コンテンツURL

<http://prezi.com/7sffu41ohrx5/non-verbal-communication-2012912/>

### III. 成果

コンテストで入賞することはできなかったが、多くの事を学んだ。

特に衝撃的だったのは、同じ大学生とは思えないほど韓国の大学生は賢くてとても頼りがいのある人たちであった。コンテンツ開発の技術だけでなく、インターネットを効率的に活用し、そこで得られた結果をレポートにまとめる技術もすべてが優れていた。

私はこのコンテストに出たことで、もっと世界に出てネットワークを広げたいと思った。参加してインターネットの上手な使い方を学び、そして新しいプレゼンテーション手段になる **prezi** を学んだ。11 か国と参加国は少ないが、様々な国の友人を作ることができた。ただ、韓国の子がコンテンツ開発が大変で寝不足になっていたり、何かに詰まっているのを見たときは、英語力がもっとあればもっとコミュニケーションをとって思い通りに行ったのかなと思うと、少し悔しく思う。異国の地で自分が考えた内容と違うことを調査し、知らない方法でコンテンツを開発するというのはなれない事ばかり恐怖心もあったが、チームが仲が良かったこと、自分のチームの人以外も仲良くなって異文化交流ができたのは私をひとつ大きくしたように思う。また、9月12,13日には自分たちが作ったコンテンツを一般の方々に見てもらうことができた。そこで、少しではあるがコンテンツの説明を行った。これも高校の時に出場した **ThinkQuest** とは異なり、原稿もなく自分が伝えたいことを短時間で伝える必要があった。でも、コンテンツを見ていただいた方にもっと興味を持ってほしいという一心で話をすることができた。

帰国後もこのコンテストで出会った仲間たちとは連絡を取り合っている。このような仲間ができたこと、そして5日間は寝ることはできなかったが、国を超えて苦しい時も支えあって頑張れたことは私を大きくしたし、それぞれの国の情報技術の高さに驚いたと同時にもっと勉強したいと思った。

### IV. 今後の目標や夢、やりたいこと

高校生の時に参加した日本での **ThinkQuest**、今回の **e-ICON World Contest** を通して、改めて何かをいかにわかりやすく人に伝えるかを考えて、コンテンツを開発することがとても楽しく思えた。

私の大学での専攻が情報科なのも高校での **ThinkQuest** の参加がきっかけである。コンテンツ開発はほんとに悩んで行き詰まり、つらい日々を送るがそれ以上に完成してそれを使う人がいるというのをみるととてもうれしい。どんどんパソコンの技術は進んでいく。それに合わせて **e-learning** も変化し続けなくてはならないと私は思う。そして、世界中に通

用するコンテンツは使いやすい見やすいだけでなく、面白さ、そして興味のない人が興味を持ってくれるようなコンテンツなのだと思います。

これから、日本でも情報教育が本格的になってくると思う。そのときに、子どもたちが正しく学べるコンテンツを作成していきたい。数学や国語を苦手としている子どもたちが、これならやれる、これなら勉強したい、この教科って面白いんだとおもえる e-learning コンテンツを作成できる技術者になりたいと思う。その時には、今回のコンテストで学んだ「楽しいコンテンツを作るのとふざけたコンテンツを作るのは違う」というのを心掛けていきたい。

そして、今回のような大会が再び開催されるのであればまた参加したい。

## V. 最後に

この大会に参加するまでにはほんとに多くの人にお世話になった。この大会に私を推薦していただいた高校の小林先生、日本での連絡を担っていただいた望月さん、そして韓国の主催者の方々、チームメイト、そこで出会った仲間たちにお礼を言いたい。ほんとにありがとうございました。

2012/10/10

## e-ICON World Contest 2012 写真

成蹊大学 理工学部情報科学科 2年 桑原 奈央



9/9 オープニングセレモニー後の集合写真 (大会 Facebook より)



コンテンツ開発時に使用したホワイトボード(1日目) 多少落書きあり笑



e-ICON 会場ポスター



1日目夜、海岸で花火を打ち上げた



コンテンツ開発場所 (ホテル会議室)



ホテルの夕飯



3日目になりネットワーク環境も改善された



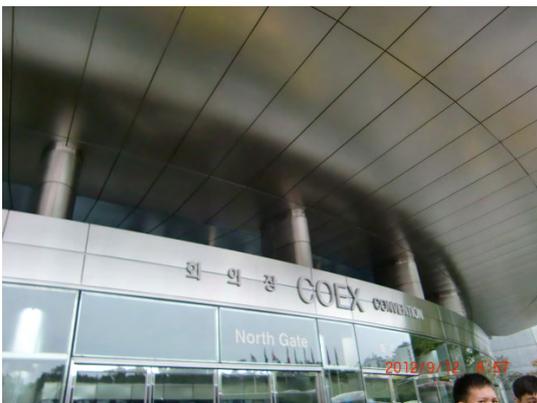
e-ICON のブース



コンテンツ開発会場でのチーム写真



e-ICON のブース



最終プレゼンとコンテンツをディスプレイする会場の COEX(ソウル)



コンテンツ発表ブース



この展示会の中にブースがある



授賞式



プレゼンテーション会場



受賞後のチームとチームボランティア



授賞式前のチーム写真



2チーム一緒に記念写真



韓国の子と仲良し



大会終了後ソウルタワーへ



タイ、日本、ロシア集合写真



海でふざける



大会終了後ソウルタワーへ



COEX での昼食場所



チーム Harmony



授賞式後の集合写真 (Facebook より)